

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372900748		
法人名	ウエルフェアファーム		
事業所名	グループホームざぼん		
所在地	熊本県八代市鏡町両出1327-6		
自己評価作成日	令和6年 月 日	評価結果市町村報告日	令和6年 12月 17日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」の理念の基に一緒に暮らしながら、利用者に安心して生活できる空間を、日々考えながら支援しています。手と手を取り、利用者目線に向き合いながら、自分の出来る事を出る範囲で協力し生活をして頂いています。残存機能を活かす事で意欲的に生活ができ、時間がかかっても利用者目線を優先に「利用者が自分らしい生活とは何か」を職員一同情報を共有し悔いのない人生となるように過ごして貰っています。コロナ禍により今まで出来なかった外出の機会は今後増え、地域の方々や親戚、友人との関係性が再開し、交流の機会が持てる様に支援していきます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do">http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和6年10月31日		

入居者の生活は穏やかで、訪問時よりリビングスペースでそれぞれに本や新聞を読んだり手作業を楽しんでいる様子があり、それが日常的であることを感じました。敷地内には法人運営のデイサービス・小規模多機能施設等もあり、地域の方々の生活を支援されています。この数年介護度の高い入居者も多くなり、生活全般への支援も増えてきていますが、職員の皆さんの寄り添う姿があり、会話を楽しみ、入居者の思いを汲取ろうとする取組みの様子を見ることができました。職員面談では「利用者を楽しませたい」「明るい雰囲気を作りたい」「笑ってもらいたい」との声があり、更に管理者と職員の年齢差、経験等を助け合い、いつまでも「共に生きる」理念の実践を今後も大切にしたホームであり続けて欲しいと思います。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		si	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが		
63			職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	
64			通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	
65			運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	
66			職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	
67			職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	
68			職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	

1. 〇〇〇〇	4. ほとんどいない
---------	------------

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共にいきる」を理念とし長年住み慣れた地域での入居者の生きて来られた過程を日々話題からその情景をイメージしながらその方らしい生き方を聞き学ばせて頂く部分が沢山あると考えています。	理念は事務所等に示している。入居者に寄り添い、日々の会話や昔話等で入居者のこれまでの生活を知り、ケアに繋げている。職員入職時にも説明している。	理念は事業所の目指すところで介護計画や日頃のケアの基本となります。理念と入居者の生活を繋げるため、運営推進会議や家族支援などの様々な機会を活用するなど職員会議や振り返りの機会作りに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同法人内いくつかの介護施設があり同一空間の窮屈さを少しでも和らいで頂くために散歩を兼ね同世代の方との交流の場に出向いたり訪問を受けたり時間が取れるように工夫している。また、地域の保育園との交流も行っている。	コロナ禍で数年交流が難しい状況であったが、この一年は公民館掃除への参加や運営推進会議への参加を頂く等、関係も構築できてきた。保育園児の来訪や、昔から続く地域の祭りの際には立ち寄り頂く等、地域の事業所として交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	感染症の流行から地域交流が十分に出来ないこともあった。運営推進会議は認知症の方の生活状況を報告しながら支援の現状を報告し意見交換の場として大切に考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議に参加頂いている民生委員、町内会長、ご家族などへ毎月の行事やイベントの報告を行い、地域での活動の紹介をいただきながらより良いサービスにつながるように意見を活かしている。	隔月開催を基本とする運営会議には家族の参加もあり、事業所の運営状況や入居者の生活の様子を報告する他、避難訓練を見て頂く機会もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に介護保険課の担当の方へ疑問、介護保険上の取り扱いについて意見を聞いたり不明な点はは出向き相談したり助言をいただき現状を把握してもらっている。	運営推進会議には市より毎回参加があり、事業所の取組みを伝えている。日頃より相談等で出向くこともあり、現状を伝えるとともに意見を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年4回の身体拘束廃止について報告、部会の研修、事業内の勉強会を繰り返している。チャイムにより入居者の動きは把握できていて精神状態に注意し見守りを行っている。基本的には玄関は施錠行っていない	身体拘束適正化検討委員会には行政・地域・家族も参加、運営推進会議でも報告している。事業所会議の他、法人各事業所合同で外部講師による接遇・プライバシー研修も行っている。玄関のチャイムは安全対策であり、見守りを基本とし入居者行動の把握を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年部会の研修参加で知識を深め3ロック、接遇等の研修は行っている。職員同士がお互い注意し合える関係性を目指している。		

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立事業や成年後見人の関りは現在ないがこれから検討したい入居者への対応として部内研修の場で知識向上に努めたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は内容の読み合わせをしながら確認を行っている。疑問や質問が生じたら都度説明し納得して頂ける様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	行事等を行う際は定期管理者会議に載せ情報を共有している。また、家族へもお知らせ参加の声掛けをしている。毎月近況報告として本人様のスナップ写真を同封して日頃の様子やイベントの様子をお知らせしている	運営推進会議や面会等の家族来訪の際は職員からも声を掛け、入居者の状況を伝えるとともに意見を得る機会としている。体調変化時だけでなく、日頃から家族への電話連絡も行い、家族との関係作りにも取組み意見を表しやすい環境作りを行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスの中で行事やイベントの予定等を報告し職員一人一人の考えや思いを反映しメンタルに負担がかからない様に業務の調整を行い実施に向けている。	毎月カンファレンスを行っている中で職員の声を確認する時間を設け、意見や提案等を表す機会としている。職員は日頃より管理者や法人へ意見を表すことができる体制である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働時間や休憩時間は確保し業務の延長にならない様忙しい中でも協力しながら既定の時間で一息出来る空間が持てる様配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護ケアの豊富な職員は経験の浅い職員丁寧に入居者の全体像を説明しながら目線は入居者へ向け同じケアから入居者の混乱を招かないように育成している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GHブロック管理者会議や勉強会の参加が出来る様年間計画に沿って自主的に選択し参加するようにしている。その場において意見交換しながら馴染みの交流がサービスの質の向上となっている。		

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			dekiryou			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前情報や生活歴を把握し職員間で共有しこれまでの生きてこられた背景から思いや望まれる生活について全員で情報を共有信頼関係作りからスタートしホームになじんでもらい本人の望む生活の思いを受け止めケアに繋げていく。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談からご家族の意向や思い、心配事などを丁寧に聞き、思いに寄り添う事で家族様と信頼関係が整い本人にとって生活の質が高まる様に話し合うようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り管理者、計画作成者が本人や家族の困りごとを話しの中から引き出し思いを整理し一番の困りごとに合わせたサービスやケアの説明、提案を行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で入居者が出来る事を職員と共に行うことで関係性も良好となり、自立性を引き出し出来ない事への手助けとなる様に協和を図っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際には職員が日頃の様子を伝え、家族との信頼関係を大切にしている。特に遠くの家族へは毎月近況報告し写真を同封し本人の生活の様子や健康状態をお知らせしている。必要に応じ電話での交流も行っている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の馴染みの交流が増えてきている。感染症対策をしつつマスクで顔の認識が出来ないこともあり、出来る限り面会の場所や対面での会話が出来る様距離をとり状況に合わせて馴染みの関係が継続出来る事を大切にしている。	入居者の身体状況等や感染対策により、気軽に外向いての支援は難しい入居者も多いが、敷地内事業所の訪問や馴染みのある祭りの慰問等、来訪による交流も見られる。書道や水彩画等、入居者の趣味である作品展示も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活リズムの習慣化で入居者間の交流の場所を大事に楽しんでいただける雰囲気作りに努めている。入居者同士で声掛け合いレクや体操への参加の呼びかけをされている。入居者のコミュニケーション作りにも配慮するように心がけている。			

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居中、退居の方向である場合でも病院と家族の調整を行うようにしている。逝去された家族に対しても相談があれば、家族に寄り添って声かけをさせて頂き、何かあればご連絡を頂くよう声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活で可能な限り寄り添い会話を通して表情や言動、不安や心配となっている事に向き合い、見守りながらケアを通して本人の気持ちの寄り処となっていて安心して過ごしていただけるようにしている。	現在の入居者は思いを表すことができる方も多い。日頃は職員の寄り添いや会話、行動・表情で把握しており、昔話や好み、好きだったことから意向等を把握、参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時情報や生活歴、愛着のある物や馴染みとの交流、会話から聞く内容をこれまでの暮らしを回想することで職員とのコミュニケーションを通して一人一人の生き方を把握し学ぶこともできる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや健康状態の把握に努め気持ちの変化がその時々に見える事があるため一人一人の心身状況に合わせた本人のスタイルに目を向けその方向の自主性を尊重している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の情報を共有し日々の生活から感じる問題点やコミュニケーションを通じて必要と思われる事は小さな事でも毎月のケアカンファレンスに課題として検討し改善点として対策を考えている。必要時は家族へも近況報告している。	日々の入居者の状況等による課題・問題点は必要に応じ随時、毎月カンファレンス時に検討している。職員の意見も交え共有し、必要に応じ介護計画へ反映している。更新時には家族にも同席頂き担当者会議を行っている。入居者の状態変化時にはケアマネージャーより家族へ連絡し、状況に応じた介護計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の体調や精神状態の変化を個別記録に記入し、どのように過ごされたか一目でわかる様にしている。内容を基に介護計画の立案、心身の状況変化を見て計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時間の許す範囲で利用者へ寄り添い、入居者目線でコミュニケーションを大事に取り組んでいる。落ち着かず一人歩きをされる時は話したり、場合によっては敷地内の散歩や法人内の介護施設と連携しながら訪問したりイベントに参加させてもらい一日笑って過ごせる生活支援をしている。		

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議の委員の方より地域交流の情報を得て参加に繋げたり、地域の保育園園児の慰問や地域の神社の祭りの奉納馬が来たりと心地よい刺激を体感して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は健康チェックを提示し心身状況を説明している。訪問診療は前日に心身状況をFAXし健康状態の情報共有を図っている。かかりつけ医とは何でも相談しやすい関係作りに努めている。	以前からのかかりつけ医の継続した受診を支援しており、入居後、協力医をかかりつけ医とされる入居者もおられる。通院が必要な場合はケアマネジャーを中心とする職員で対応している。受診の結果は家族へ連絡し共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態を事業所内の看護師へ報告し状況に応じて24時間オンコールの連絡体制をとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、利用者に関する情報提供を作成し担当者へ提供している。入院中は病状の経過を連携室と情報を共有し、退院に向けて回復状況、退院の目途の情報を得ながら受け入れ体制を整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りに向けて方針を説明している。重度化し終末期を迎える前にはその容体に合わせて家族の思いや希望を都度丁寧に聞き、今後の方向を踏まえて家族と話し合いの場を持つようにしている。協力医へも家族様との面談支援を行なっている	入居時に事業所の方針や対応を説明している。法人には他にも介護施設があり、身体状況や希望等、入居者にとってより良い生活環境になるよう住み替えの連携支援もできる。実際にその時期を迎える際には家族や医療機関と連携を取り支援を行う。看取りに関しては毎月事業所内勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生術やAEDの取り扱いの研修をと通して緊急時に備え実践できるように独自の資料や動画による研修を行なうように努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防・防災訓練を実施している。防災訓練の手続きを行ない、消防署への通報、水消火器を使用し初期消火、避難誘導時は同法人事業所の協力を得ながら実施している。今年度からBCPに沿って実施となる	年2回の消防・防災訓練では都度出火場所を想定し入居者も参加している。運営推進会議でも訓練の様子を見て頂き意見を頂いている。法人の支援・連携体制もありBCPの作成も行っている。	近年は想定外の自然災害も発生しています。火災だけでなく様々な状況を想定し、例えばシェイクアウト訓練を利用する等の工夫も必要と考えます。法人によるBCP策定も行われています。職員会議を利用した読み合わせ等も行われてはいかがでしょうか。

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活の中で安心して過ごしていただけるように、一人ひとりの人格を尊重し言葉かけには十分注意し、不快な気持ちにならないよう言葉を考えわかりやすく話しかけるように努めている。	職員へは継続した研修を行っており、法人全体でも外部講師による接遇研修を行っている。現状心配される事例はない。普段から入居者が不快にならないよう言葉かけ等配慮している。トイレには扉の内側にカーテンを設置している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で気分の変化に注意し、利用者の言葉や行動、表情から思いを感じ取り本人の気持ちに寄り添い「したい」ことへの取り組みができるように見守り、一緒に取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本の生活リズムとなるが、一人ひとりの生活スタイルに合わせている。日課遂行に気分の変化が生じることもありその方のペースを尊重し柔軟に対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床洗面時に洗顔後鏡を見てご自身で整髪していただき、衣服選びは本人の好みや状況に合わせて機能性を見ながら本人と一緒に選ぶ環境にしている。外出時やイベント参加時は「口紅ぐらいいは」と手鏡を準備し自身でしていただくようにしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューをお知らせし健口体操を実施している。一人ひとりの嗜好を把握し、それぞれに応じて食材を提供している。食後は利用者と一緒に片付けをおこなっている(台拭き、お盆ふき、食器ふきなど)	入居時に食事の好みをお尋ねし、普段の生活でも好き嫌い等意向を確認している。家族からの差入れ等は基本的に自由である。魚を好まない方への食材変更等、それぞれに合わせた対応も行っている。食事は敷地内厨房で作られている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの摂取量を把握、水分量を数値化し記録している。不足しているときは嗜好品や飲料水を提供し必要量で食べていただくように配慮している。咀嚼嚥下力に合わせて食事形態を検討し状況に合わせてトロミ使用を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その方のADL能力に合わせている。必要に応じて付き添い、準備から義歯洗浄の支援を行ない口腔内の状態を観察、必要に応じて訪問診療や外来診療に繋げている。		

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から排泄パターンを把握し誘導することでトイレでの排泄につなげている。羞恥心に配慮しながら、一人ひとりの排泄能力に合わせて紙パンツ、布パンツで対応している。体調に変化があるときは都度検討し対応している	入居者それぞれの身体状況や記録によるパターン把握等で、できるだけトイレでの排泄に向け声掛け・誘導等により支援している。パットのサイズ変更やオムツ使用検討の際は職員間で話し合い検討し、対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表や飲水量を確認しながら排泄習慣を把握し、便の形状・量を把握している。便秘の際は気持ちの不安定さが見られることにも注視している。体を動かすレク体操を実施し活動することで自然排便を促すようにしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で入浴を実施しているが、気が進まない利用者には時間を変更したり、職員が変わり声かけしたり、翌日に変更するなど無理強いないようしている	週2回の入浴を基本としているが、浴室の準備は毎日行っており、入居者の体調や希望等により臨機応変に支援している。入居者の身体状況はそれぞれであるが、過度な介護はせず、できる力を大切にしている。入浴後の服の準備も職員と入居者と一緒を選ぶ等、選択を尊重する機会も作っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の中で静養の時間を取り入れている。ご本人の希望に合わせて体調等を見ながら自室で休んでいただく。夜間はご本人のペースにあわせて就寝とする。夜間の安眠に繋がるよう日中は体を動かすように取り組んでいる		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの薬の目的など理解した上で内服薬の変更時は個人記録や連絡ノートなどに書くようにしている。又変化があった場合カンファレンス時皆で話し合い情報の共有に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活、今までどのような体験、経験をしてきたか情報を得て役割を提供し現れる表情、言葉を汲み取り生き甲斐にし活動に繋げていく		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	温かく天気の良いは気分転換や筋力維持のため敷地内の散歩を行なっている。コロナ感染症対策をとりながら季節を感じていただくようバスハイイクなど野外活動を検討していきたい。また家族様へは野外活動のお知らせをし参加への声かけを行なっていく。	車椅子利用の入居者も増え、その日の希望による気軽な外出の機会作りは難しい状況であるが、気候の良い時には敷地内散歩等、外気を感じる機会を作っている。新年の参拝には出向いた。	入居者の身体状況もそれぞれであり、その日の希望や家族・地域と協力しての外出は難しい現状もあるようです。外出する機会を日常の活動に取り入れてみてはどうか(配食受け取り・ゴミ出し・洗濯干し、取り入れ等)。

グループホームざぼん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとり小口金として施設で管理している。入居者の希望があればお財布に必要金額分を準備し一緒に支払う形としている。毎月小口金出納記録でお知らせしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話、携帯に連絡がする場合や職員が用事でお知らせした際には、ご本人に代わって会話していただくようにしている。遠方からのお手紙についてはご本人が開封し必要に応じて代読して交流の楽しさを支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるようフロア、壁に共同制作した作品を展示している。テーブルには自由に行ける様にし入居者同士の交流が楽しめるようにしている。換気は十分にしない室温が変化しないよう窓の開け方など工夫している	車椅子利用の方も多くなり、また転倒リスクを減らすための動線確保に配慮している。入居者が心地良く過ごすことができるよう掃除・換気等随時行っている。訪問時は新聞や本を読む方、手作業を楽しむ方等、思い思いに時間を過ごす入居者の姿があった。	穏やかな雰囲気、入居者がそれぞれの時間を思い思いに過ごしておられる姿がありました。掃除は現在職員により行われているようですが、「一緒にできるようなお手伝いをする」支援も理念に繋がるのではないのでしょうか。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座席は限定せず気の合った入居者同士の交流を大切にしている。一人を好まれる入居者や交流のタイミングを逃された入居者へは職員が横に行き会話して雑談するようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様の使い慣れた物だったり写真を置き、心地よい空間を作っている。	入居時に使い慣れた生活用品の持ち込みをお願いしている。ベッドは事業所により備えてあるが、この数年介護度も高くなったことから、状況に応じた入替も行ってきた。訪問時、居室には家族写真もよく飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	屋内ではご本人が「したいこと、できること」に注目し必要によっては介助の場面もあるが、車椅子移動時はご自身で自歩を見守ったり、手引き歩行で安全性を確保しながら行動を見守っている		

## 2 目 標 達 成 計 画

事業所名グループホームざぼん

作成日 令和 6年12月17日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	認知症状の変化や日常生活動作能力の状態変化を把握する力をつけ見をだし身体状況にあわせたケアを考え活かす力をつける	入居者にとって今何が必要なことか入居者のADL能力を理解し計画を立てケアに反映させることができるようになる	状態変化時のADLの把握を職員それぞれが個別で様式を活用し問題点を洗い出しケアカンファレンスで検討し情報を共有する	6ヶ月
2	34	急変時の対応や事故発生時の応急手当について連絡体制について職員の認識に不明確な部分がある	緊急時の連絡網の理解や報告の不慣れ応急的措置の認識不足があるためスムーズな初期対応ができるようになる	救急搬送時の手順主治医への報告や家族の情報をしっかり理解することや応急手当などできるよう関係機関の研修に参加する	12ヶ月
3	35	火災時の初期行動の認識理解や災害対策として事業所の指針に目を通し想定した内容で訓練により初動を身につける	想定した災害対策に職員がそれぞれの初動行動がスムーズに行くよう繰り返しの訓練で身につける	・年2回の火災避難訓練を昼間、夜間を想定した訓練を法人全体の協力体制で取り組んでみる ・地域住民との交流を作り上げていく	12ヶ月
4	1	職員間での周知はもちろん御家族様や運営推進会議、地域の方にも知ってもらえるような関係を作る	職員が理念の意味を理解し利用者様に寄り添う。またご家族様や地域の方にも話の中に取り入れる	ご家族様、地域の方、会議等で今までより濃い関係を築いていく。契約書に記載する等知ってもらえる機会を増やす。	6ヶ月
5	19	今まで以上に家族様との関係を築き連絡、相談をお互いしやすい環境作りをする	ご家族様との応援をおおりに病院受診や外出等してもらおうよう呼び掛ける	連絡をとり今利用者様が求めているものの共有をしていく	6ヶ月

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

